横須賀日日新聞　第49号
2016年4月3日

あなたが地域の主人公　12

テーマ：新生・横須賀へ
若さと女性のパワーを

※許可を得て掲載しています。

YOKOSUKA NICHINICHI SHIMBUN
横須賀日日新聞
市民記者がつくる
発行所：神奈川新聞横須賀支社 〒238-0004 横須賀市小川町21-9 TEL.046(822)2020 FAX.046(823)3845 yokosuka@kanagawa-np.co.jp
神奈川新聞のご購読申し込みはフリーダイヤル 0120-446-709。1週間のお試し読みも受け付けています。購読料1カ月3,189円
第49号
平成28(2016)年4月3日発行

INDEX
2 気仙沼とネパール
3 仕事生かして陶芸
4 ツツジの季節到来

あなたが 地域の主人公 12

新生・横須賀へ

若さと女性のパワーを

テレビのバラエティー番組でよく見かけるひな壇のパネリストを初めて経験した。横須賀商工会議所が主催する「新生・横須賀実践フォーラム」でのこと。

頂いたテーマのキーワードを紙に書き意見を言う。司会者の軽妙な進行で、会場と一緒に笑いながら楽しんだ。ネクタイをしたおじさんが集まるイメージが強い商工会議所としては、破天荒な企画だろう。

だが、テーマは深い。人口減少に悩む横須賀をなんとか活気づけようと、商工会議所がプロジェクトチームを作って進めてきた、その成果報告会。

地域の課題解決は多様な主体が連携することにあるとたびたび紹介してきた。県とサポートセンターが連携した「企業×NPO×大学パートナーシップミーティング」(9月号)、市と民間中間支援組織が連携した「生涯現役フォーラム」(11月号)、「県立保健福祉大学と三浦市、シルバー産業の連携」(1月号)などだ。

「新生・横須賀実践フォーラム」も実行委員にNPOが入り、地域の、異なる主体が連携して活性化を進めていく手法だ。150人を超える会場の熱気と報告されたアイデアは未来を感じさせた。

ひな壇のパネリストとして最も輝いていたのは大学生の女性3人だった。

中央大学の八村美璃さんは、高校生仲間と「ヨコスカ・ネービー・パーカー」で地域ブランドファッションをヒットさせた。「大人の事情が横須賀のポテンシャルを邪魔してる。子どもだからこそ素直にズバズバ言ってしがらみを壊したい」と熱く語った。神奈川歯科大学短期大学部の徳永明子さんは「横須賀で働きたいのに『横須賀、インターン』で検索すると市役所しか出てこない。若者が働けるチャンスをつくって」と切実な要望。同大学の小林ちひろさんは、サブカルチャーや横須賀の自慢スポットなど、市民が気づいていない魅力をキーワード「ここにあるよ」で語った。

2月17日、横須賀商工会議所で開かれた「新生・横須賀実践フォーラム」

3人の発想力、説得力、地域への情熱、何をとっても素晴らしく、おじさんたちはたじたじであった。

そして商工会議所の女子プロデュース部のみなさん、オープニングを歌と手話で盛り上げたNPO法人みゅーまるの理事長・岡本和子さん、実行委員でお母さん新聞の編集長・田中清美さんも輝いていた。

いままで地域連携の主体として企業、NPO、大学、行政などを挙げてきたが、「若さ」と「女性」のパワーを加えるべきだと思い直した。

(横須賀市立市民活動サポートセンター館長・高橋　亮)